

卒業式 式辞

本格的な春の訪れが、そこかしこで感じられる季節となつてまいりました。本日、ここに令和六年度卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

本学での学びを終え、本日ここに、晴れて卒業を迎えられた皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

全教職員を代表して、お祝い申し上げます。

また、本日ご臨席を賜りましたご家族の皆さま、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。

お子様のご卒業を共に祝えることに感謝申し上げます。

ただいま、大学院十名、大学三三六名、短期大学部一〇八名、計四五四名の修了者・卒業生に「卒業証書・学位記」を授与いたしました。この「卒業証書・学位記」は、皆さんがそれぞれの研究科・学部・学科で勉学に励み、本学での学びを終えられた証です。

そして本日は、多くの人に支えられ、見守られて、学生生活を送り、これから、社会人としての歩みが始まるという門出の日でもあります。

さて、皆さんはこの兵庫大学・兵庫大学短期大学部で何を学んでこられたでしょうか。将来の夢に向かって、自身の興味・関心に沿った専門分野の知識や技術、それを実践するための行動力など、学問としてだけではなく専門職業人として活躍するために必要な力を身につけてこられたことと思います。さらには、学びの中にあつて、課題意識を持ち、それを深く掘り下げ、自分なりの考えや感性を磨くこと、夢の実現に向けて自分の可能性を最大限に信じ、ひたむきに取り組んできたこと、励まし合いながら切磋琢磨し共に成長する仲間との出会いなど、今だからこそ獲得できる経験を沢山されてきたことと思います。

皆さんが過ごした学生生活の間にも、世界はめまぐるしく変化し続けてきました。国際社会ではウクライナ戦争やガザ侵攻といった国際紛争や気候変動による異常気象はエネルギー供給の不安定化や物価高騰を招き、私たちの生活や経済に大きな影響を与えています。日本においては2025年問題と呼ばれる超高齢社会への対応など、現代社会は複雑で重大な課題に直面しています。

このような不確実性の高い時代を生き抜くためにも、学び続けることの重要性がますます高まっています。また、新たに生み出される技術を生活や仕事に取り入れていくことも求められてきます。例えば、C h a t G P Tをはじめとする生成A Iの革新的技術の急速な発展は、情報の収集や分析、アイデアの創出、さらには課題解決の方法そのものを大きく変えつつあります。

未知の状況に直面したときには、これらを上手に活用しながら情報を正しく理解し、皆さんが培ってきた知識や経験も活かしながら、最善の選択をしていかなければなりません。

ここで大切なことは、社会の変化に適応しながらも、自分らしさを忘れず、人とつながり、支え合いながら歩んでいくことです。A Iや技術革新が進む時代だからこそ、人としての温かさや共感する心がますます大切になってくるのではないのでしょうか。そういった「人間力」に加えて、学んだ知識や技能を更新してく「応用力」をもつ専門職業人の養成こそが、本学のめざした教育です。

本学で学んだ「人間力」「応用力」をさらに磨き、「ありがとうのプロフェッショナル」を目指してほしいと考えています。感謝の念を抱き仕事をさせていただくことで、やがて皆さん自身が「ありがとう」という感謝の言葉をいただくことができる専門家となるのです。卒業生の皆さん全てが「ありがとう」にあふれる人生を送ってほしい、それが私たち教職員の願いなのです。

これから皆さんが歩む長い人生は、無限の可能性を秘めています。ただ、これまでの人生の中で体験したことのないような大きな壁にぶつかることもあるかもしれません。

そのような時には、本学での学びや経験を基礎としながら、さらに学び、柔軟な思考を巡らせ、乗り越えていただきたいと思います。

ただ、それでもなお、壁を乗り越えれそうにない時は、どうか私たちを訪ねてください。もし皆さんが、これからの人生の中で孤独に苛まれるようなことがあったとしても、決して一人ではないことを思い出してください。

私たちは常にあなた達と共にあります。

それでは、卒業生の皆さんが、これからの長い人生をしっかりと歩まれ、健康で幸せでありますことを、心より念じまして、令和六年度卒業式の式辞とします。

令和七年三月二十三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

学長 河野 真